

垂水市記者発表（令和4年6月29日）

【垂水市自殺対策事業】
垂水市内の小中学生・教職員を対象とした
SOSの出し方教育授業・研修会

自殺対策事業の一環として、本取組を広く、県民・市民へ周知し、事業の輪を広げていきたいと考えております。貴報道機関での取材をお願いいたします。

取材の際は、お手数いりますが、保健課健康増進・元気プロジェクト係（32-1116）までご連絡ください。新型コロナ対策の一環として、本市から学校側へ事前連絡いたします。

■資料 本紙を含む3枚

1 概要

自殺対策事業の一環として、垂水市内の全小中学校にて、児童・生徒及び教員向けに「SOSの出し方教育事業（授業・研修）」を実施いたします。実施は、昨年度に引き続き、2回目となります。



2 実施スケジュール

令和4年7月13日（水）～7月15日（金）

	学校	実施日	時間	人数
1	垂水小（6年）	7月13日（水）	4限目 11:20～12:05	46
			5限目 13:35～14:20	
2	協和小（5・6年）	7月14日（木）	3限目 10:40～11:25	13
	牛根小（5・6年）		※講師は協和小で授業を行い、残り2校はオンラインでつなぎます。	6
	松ヶ崎小（5・6年）			4
3	水之上小（6年）	7月14日（木）	5限目 14:10～14:55	15
	柁原小（5・6年）		※講師は水之上小で授業を行い、残り2校はオンラインでつなぎます。	11
	新城小（5・6年）			9
4	垂水中央中（1年）	7月15日（金）	3限目 10:50～11:40	98
	垂水中央中（2年）		4限目 11:50～12:40	87
	垂水中央中（3年）		5限目 14:20～15:10	91

3 事業背景

日本における令和元年の死因順位別を見ると、10歳から49歳の死因の第1位から第2位を自殺が占めている。また先進8か国においては、10歳から29歳の死因の第1位が自殺となっており、他の国に比べて高い水準となっており、若い世代の自殺は深刻な状況にある。

本市においては、平成25年から令和2年の自殺者数を年齢階級別に見ると、20歳未満の自殺者はいないものの、20歳以降に自殺者が増える傾向にある。

また本市では令和元年度に自殺対策計画（垂水市いのち支える自殺対策計画）を策定し、自殺対策として、相談体制の強化や、人材育成等に取り組んでいる。

本事業は、自殺統計の現状や、本市自殺対策計画に基づき、感情表現が成長過程である児童や生徒、その受け手となる教育従事者等に対して、「SOSの出し方」や「SOSの受け止め方」に関する知識や表現する力を身に付けることを目的としたものです。

4 目的

- （1）児童・生徒におけるSOSの出し方に関するスキルの習得
- （2）教育従事者における児童・生徒のSOS受け止め方に関するスキルの取得

5 実施方法

学識経験者等を講師に招き、対象者に応じた「SOSの出し方教育」や「SOSの受け止め方」等の授業や研修を実施する。

小学生向け授業テーマ・・・自分と誰かを大切にするために

中学生向け授業テーマ・・・SOSの出し方教室～自分と相手を大切にするために

6 講師

高橋 聡美 氏

中央大学人文学科研究所客員研究員、一般社団法人高橋聡美研究室代表

（略歴）

- ・宮城県仙台市在住、鹿屋市出身、南さつま市（加世田市）育ち
- ・自衛隊中央病院高等看護学院卒、精神科・心療内科の看護師として8年勤務
- ・東北大学大学院医科学系研究科 博士（医学）
- ・2003～2005年 スウェーデン在住 医療福祉・教育政策の調査
- ・2012年 つくば国際大学 精神看護学 教授
- ・2014年 防衛医科大学校 精神看護学 教授

- ・ 2020 年 4 月 中央大学人文科学研究所 客員研究員
- ・ 2021 年 4 月 BPO（放送倫理・番組向上機構）委員
- ・ 2021 年 5 月 一般社団法人 高橋聡美研究室を設立
- ・ 2021 年 7 月 垂水市における S O S の出し方教育事業講師
- ・ その他全国各地で講演、授業を実施

■所管課

垂水市保健課（健康増進・元気プロジェクト係）

■共 催

垂水市教育委員会 学校教育課

■問い合わせ先

垂水市保健課

健康増進・元気プロジェクト係 電話 0994-32-1116（直通）

担当：庭田・山口